

わかったことを伝えよう！ ～科学と、コミュニケーションと、サンゴ礁～



サンゴ礁保全シンポジウム

参加
無料

2019年12月8日(日)
13:00-18:00 (受付開始 12:00)

【対象】
関係団体、
関心のある方!

会場 | 沖縄県立博物館・美術館 (おきみゆー) 博物館 講座室
定員 | 100名 ※事前申込み制、先着順

隆起サンゴ礁の島

喜界島における研究拠点形成とサンゴ礁を通じた科学教育

駒越 太郎 (喜界島サンゴ礁科学研究所 研究員)

地域を支える人づくり～白保集落のサンゴ学習～

小林 俊介 (WWFしらはサンゴ村)
山口 美樹 (特定非営利活動法人 夏花)
多宇 明範 (白保魚湧く海保全協議会)

研究成果をサンゴ保全の現場に活かすには？

鈴木 豪 (西海区水産研究所)

沖縄の島嶼地域における生物多様性研究と保全活動

藤田 喜久 (沖縄県立芸術大学)

学生だからできた!多様な人々によるユニークな環境保全への取り組み

トーマス真紀 (OIST)



お問合せ・お申し込み先

総合研究センター 普及開発課

TEL : (0980) 48-2266

美ら島財団

<http://churashima.okinawa/>



13:05-13:35

隆起サンゴ礁の島
喜界島における研究拠点形成と
サンゴ礁を通じた科学教育



駒越 太郎

喜界島
サンゴ礁科学研究所
研究員

喜界島でのサンゴ礁研究と
島に暮らす人々へ向けた知識・情報の提供と科学教育

北海道大学大学院理学院修了、博士(理学)。2017年より喜界島に滞在しながら、シャコガイの殻を用いた古環境解析と共に研究拠点の整備と地域と協働した科学教育事業を担当。

13:40-14:10

地域を支える人づくり
～白保集落のサンゴ学習～



小林 俊介

WWF
しらほサンゴ村

石垣島白保の人々が行う教育活動とそのサポートについて

WWF サンゴ礁保護研究センター センター長。WWF ジャパン 入局後ボルネオ島での野生動物、森林保全の活動に従事。2018年よりWWF サンゴ礁保護研究センター長に就任。



山口 美樹

NPO 法人 夏花

福岡生まれ福岡育ち。

白保へ移住し、三線修行しながらNPO活動をしています。白保のために何ができるのか・・・と、模索しつつ。楽しく暮らしています。



多宇 明範

白保湧く海保全協議会

石垣島白保生まれ、白保育ち。

きれいな白保の海で漁をしながら、シュノーケルショップ「あびあぼん」も経営しています。人前で話すのは苦手ですが、頑張ります。

14:10-14:40

研究成果をサンゴ保全の
現場に活かすには？



鈴木 豪

西海区水産研究所

海人によるサンゴ礁の漁場再生を技術開発でバックアップ

サンゴの産卵などを中心に研究している。元々、進化・生態に興味を持って研究をスタートしたが、最近ではもっぱら保全関係の研究が多くなっている。

----- 14:40 ~ 14:50 -----

休憩

14:50-15:30

沖縄の島嶼地域における
生物多様性研究と保全活動



藤田 喜久

沖縄県立芸術大学

沖縄の島々で調査・研究を行うことの意味と、地域の人々と協働した保全活動の実例について

沖縄の島々を飛び回り、水圏環境に暮らす生物(特にエビ・カニ類と棘皮動物)を調査・研究している。科学教育や保全活動などにも深く関わっている。

15:30-16:10

学生だからできた!多様な人々に
よるユニークな環境保全への活動



トーマス真紀

OIST

様々な多様性を持つOISTエコクラブのアウトリーチ活動の紹介

琉球大学理学部3年次、米国大学へ編入しジャーナリズムと環境学を専攻。環境コンサルに携わった後、OISTの博士課程へ進み研究、子育て、アウトリーチの企画運営に努める。

シンポジウムの流れ

第1部

13:05 ~ 16:10

講演5題

科学情報の伝え方やわたしたちができる保全活動、継続的なコミュニケーション方法を紹介。

第2部
各講師による
デモンストレーション

16:20 ~ 17:00

活動内容を紹介する展示ブース。
デモンストレーションを通して、〈科学コミュニケーション〉を体験!
研究者と参加者間で、情報や意見の交換の場に!

第3部
まとめ

17:00 ~ 17:30

全体のまとめと、
各講師からのメッセージ。

館内への飲食物の持ち込みはご遠慮くださいませ。